

## 令和3年度第2回常務理事会議事録

日 時：令和3年10月8日（金） 15：00～17：30

会 場：東京スクエアガーデン5階東京コンベンションホール中会議室II-BC  
（ハイブリッドで開催）

理 事 長：木村 正

副理事長：青木 大輔、加藤 聖子

常務理事：大須賀 穰、岡本 愛光、工藤 美樹、関沢 明彦、永瀬 智、万代 昌紀、三上 幹男、  
渡利 英道

監 事：藤井 知行、増崎 英明、八重樫 伸生

特任理事：川名 敬、宮城 悦子、横山 良仁

顧 問：小西 郁生、吉村 泰典

理事会内委員会委員長：亀井 良政、小林 陽一、杉浦 真弓、中井 章人、増山 寿、吉田 好雄、  
若槻 明彦、

総会議長：久具 宏司

総会副議長：小谷 友美、田中 京子

幹 事 長：矢内原 臨

副幹事長：山上 亘

幹 事：池田 悠至、泉谷 知明、井上 大輔、井平 圭、桑原 慶充、小出 馨子、古宇 家正、  
小松 宏彰、佐藤 健二、高江 正道、竹中 将貴、徳永 英樹、中川 慧、永松 健、  
野口 靖之、福原 理恵、細川 義彦、森定 徹、矢幡 秀昭、山口 建

事務局：吉田 隆人、磯 秀則、青野 秀雄、加藤 大輔

15：00 理事長、副理事長、常務理事の全員が出席し、定足数に達しているため、木村正理事長  
が開会を宣言した。議事録署名人には、理事長、監事の計4名を選任し、これを承認した。続い  
て、令和3年7月30日に開催された令和3年度第1回常務理事会議事録案を承認した。

### I. 業務担当理事報告並びに関連協議事項

#### 1) 総 務（青木大輔副理事長）

〔I. 本会関係〕

##### (1) 会員の動向

とうじょうりゅうたろう

①東條 龍太郎 功労会員（神奈川）が9月16日にご逝去された。

##### (2) 令和3年度第2回臨時総会開催について

青木大輔副理事長「本会の見解を改訂する必要な事案があり、臨時総会の開催を計画している。」  
本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

##### (3) 専門委員会

(イ) 生殖・内分泌委員会 特になし

(ロ) 婦人科腫瘍委員会

①会議開催

第1回 婦人科癌取扱い規約病理編 改訂編集委員会	8月30日、9月8日
第1回 子宮体癌取扱い規約病理編 編集委員会	9月18日
第1回 子宮頸癌取扱い規約病理編 編集委員会	10月20日【予定】
第1回 卵巣腫瘍・卵管癌・腹膜癌取扱い規約病理編 編集委員会	10月26日【予定】
第2回 子宮体癌取扱い規約病理編 編集委員会	11月26日【予定】
令和3年度 第2回婦人科腫瘍委員会 (Web会議)	11月29日【予定】

②子宮頸癌の進行期が変更になったため、登録画面の改修を行った。2021年症例の登録は、10月下旬よりサイトオープンする予定である。

③CINの診断、管理、治療の実態調査に関する小委員会において、子宮頸部上皮内腫瘍(CIN)の診断、管理、治療の実態調査を行う予定である。

④UMINの腫瘍登録画面の改修について。

[資料：総務0]

永瀬智委員長「本会の子宮頸癌オンライン登録症例収集システムの2022年版改修開発費用および2021までの改修開発費用について合算とし50万円にすることについて、覚書を交わした。」  
本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

⑤日本婦人科腫瘍学会からの腫瘍登録データベースのプラットフォーム作成に関する協力依頼について。

[資料：総務0-1,0-2]

永瀬智委員長「婦人科悪性腫瘍に関しては、①本会で行っている腫瘍登録項目、②合併症登録として内視鏡学会に提出する項目、③ロボット手術についてはNational Clinical Database (NCD)に登録する項目と、同一症例に対して複数のサマリ管理が必要な場合がある。また、本会の腫瘍登録の初期目的は、進行期別の予後を診ることにあって研究に用いるには情報が少ないという課題もある。これらの課題解決のために、日本婦人科腫瘍学会では、あらたなシステムの構築を企図している。入力重複性を解消し、さらに各学会へのデータ登録にはそのまま流用できるようなソフトを開発するものであり、これに協力願いたいという要望を受領した。委員会では方針に賛成する方向とし、本会からは委員として馬場長先生、吉野潔先生、梶山広明先生、徳永英樹先生を推薦した。現在、婦人科腫瘍学会、内視鏡学会、本会で、実務面、倫理面のワーキンググループを立ち上げ検討を進めている。こうした進捗状況を踏まえ、賛同方針をお諮りする。」

三上幹男常務理事「このシステムを持つことによって、必要なデータを日本内視鏡外科学会、日本婦人科腫瘍学会と本会が同時に共有出来るようになることは、例えばテクノロジーの進化にも資すると思われる、メリットはある。」

青木大輔副理事長「デメリットはどのようなものが挙げられるのか。」

永瀬智委員長「悪性腫瘍の取扱い件数が多ければ入力作業負荷軽減メリットは大きく、少なければメリットを感じないかもしれない。あとはコスト面だろう。システム立上げまでは日本婦人科腫瘍学会が負担する方針だが、今後協議しながら進めていきたい。」

木村正理事長「入力したデータは大学病院医療情報ネットワークに反映されるのか。本会独自のシステム改修も検討しているが、それとは切り離せると理解して良いか。また、新しいシステムに入力するデータは入力後も各施設で保有できるのか。」

永瀬智委員長「本会のシステム改修と切り離して結構だ。データ入力後の扱いはその通りだ。」

吉田好雄委員長「入力負荷が増えるということは無いのか。」

永瀬智委員長「必要最低限の入力項目と、各学会が必要とする項目を整理し最小限に抑えられるよう、検討している。」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

- ⑥「子宮頸癌に対する腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術（子宮頸がんに限る）登録施設ならびに施行施設」申請審査について、登録施設の内訳は、更新：承認87/申請90（施行施設から登録施設へ変更：承認4/申請4）、新規：承認5/申請6、施行施設の内訳は、更新：承認8/申請8（登録施設から施行施設へ変更：承認4/申請4）、登録施設承認不可のため施行施設として承認した施設：4、新規：承認8/申請8である。

永瀬智委員長「審査結果を腫瘍委員会として確認したことから、本会のホームページに掲載したい。更新について要件の問い合わせが多く、図などで補足し、ホームページに掲載したい。」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

#### (ハ) 周産期委員会

##### ①会議開催

フィブリノゲン製剤の登録制度に関する打合せ	9月27日
-----------------------	-------

- ②厚生労働省から、産科危機的出血の際の条件付きフィブリノゲン製剤保険適応の通知（資料：総務3）が発出されたことを受けて、周産期委員会でフィブリノゲン製剤の適正使用に関して会員へのお知らせを作成し、ホームページに掲載した。 [資料：総務1]

青木大輔副理事長「産科危機的出血に伴う後天性フィブリノゲン血症に対する適応拡大に際し、投与対象、用法用量等、適正使用を遵守することが強く求められている。基準を設定し適正使用の推進を図ることを、本会ホームページに掲載し、会員の皆様へ周知した。使用実態の把握のため使用例の全数を本会への登録制の導入を行うことについて、現在システム構築中である。」

- ③内閣府日本学術会議事務局から、「子ども・妊婦への受動喫煙対策をさらに充実させるべきである」についてのアンケート調査依頼を受領した。医師監修の健康アプリの利用による啓発、社会全体で喫煙に対するネガティブなイメージを創出すべき等、回答した。 [資料：総務1-1]

- ④国内でのCOVID-19妊婦の現状～妊婦レジストリの解析結果（中間報告）について、ホームページに公開した。 [資料：総務1-2]

- ⑤国立成育医療研究センター妊娠と薬情報センターから依頼があった、第2回「医療用医薬品添付文書の妊婦に関する禁忌等の記載内容の変更を希望する薬剤調査」については、第2回理事会で要望が出た、アスピリン添付文書の記載変更についての要望書を提出した。 [資料：総務1-3]

#### (ニ) 女性ヘルスケア委員会

##### ①書籍頒布状況（9月30日現在）

	9月販売数	累計販売数
低用量経口避妊薬・低エストロゲンプロゲステロン配合薬ガイドライン 2020 電子版付	282冊	4,344
ホルモン補充療法ガイドライン 2017 書籍版	24冊	3,876
ホルモン補充療法ガイドライン 2017 書籍版+電子版用ID・PW付	16冊	1,466
女性アスリートのヘルスケアに関する管理指針	6冊	1,230

②月経前症候群・月経前不快気分障害に対する診断・治療実態調査小委員会において、本会会員を対象とする「PMS/PMDD に対する診断・治療の実態調査」を行った。

③特定疾患治療管理料の算定要件を満たすために e-learning で行っている『器質性月経困難症に対する適正なホルモン療法等に係る研修』について1年半が経過したため、講習の振り返り評価として、受講者を対象にアンケート調査を予定している。

(4)厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会副反応検討部会を受けて、日本の女性を子宮頸がんから守るための声明を、日本産婦人科医会と連名で発出した。 [資料：総務1-4]

青木大輔副理事長「ワクチン分科会副反応検討部会で、ほぼ積極的受信勧奨の方向に向かうことが示されたが、反対される方もあって本会として声明を出す必要性があり、日本産婦人科医会と連名で発出した。」

木村正理事長「本件は日本産婦人科医会から提案があり、発出した。この問題はこれまで、医師対被害者という構図になっていたが、オンブズパーソン対女性という構図にならないよう意識した文章になっている。」

(5)本会システム全般のリニューアルについて [資料：総務1-5]  
指摘された問題点の解決に向け検討を進めることについて、特に異議なく全会一致で承認された。

## 〔Ⅱ. 官庁関係〕

### (1) 厚生労働省

#### ①会員周知依頼（本会ホームページに掲載済）

部署	内容	資料
医薬・生活衛生局 医薬品審査管理課 医薬安全対策課	新たに薬事・食品衛生審議会において公知申請に関する事前評価を受けた医薬品の適応外使用について	総務2
医薬・生活衛生局 医薬品審査管理課 医薬安全対策課 血液対策課	新たに薬事・食品衛生審議会において公知申請に関する事前評価を受けた後天性低フィブリゲン血症における乾燥人フィブリゲンの使用に当たっての留意事項について	総務3
保健局医療課	公知申請に係る事前評価が終了した医薬品の保険上の取り扱いについて	総務4
医薬・生活衛生局	「血液製剤等に係る遡及調査ガイドライン」の一部改正について	総務5
医薬・生活衛生局医薬 安全対策課	新型コロナワクチンの交互相種に係る「使用上の注意」の改訂について	総務6
医政局長	現行制度の下で実施可能な範囲におけるタスク・シフト/シェアの推進について	総務6-1

#### ②本会ホームページへの掲載（会員周知）依頼を受領した。

部署	内容	資料
医薬・生活衛生局 医薬品審査管理課	特例承認に係る医薬品に関する特例について	総務6-2

医政局総務課	医療法第六条の五第三項及び第六条の七第三項の規定に基づく医業、歯科医業若しくは助産師の業務又は病院、診療所若しくは助産所に関して広告することができる事項の一部を改正する告示の施行について	総務 6-3
--------	---	--------

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

③子ども家庭局母子保健課より、2021年度子ども・子育て支援推進調査研究事業としての「不妊治療中の方への里親・特別養子縁組の情報提供方法に関する研究」へのアンケート調査について、本会理事長からの協力依頼書を同封することについての承認依頼があり、これを応諾した。

[資料：総務 8, 9]

④子ども家庭局母子保健課より、第2回母子健康手帳等に関する意見を聴く会の傍聴案内が届いたので、周産期委員会に傍聴頂いた。

[資料：総務 10]

⑤医政局医事課より、医師の働き方改革におけるC-2水準の申請に関わるモデル審査への参加依頼を受領した。本会からは、サステナブル産婦人科医療体制確立委員会に参加を依頼した。

[資料：総務 11]

**青木大輔副理事長**「本件は重要な問題である。C2水準の内容は具体的に決定していない。ある程度まとまった時点で現状報告をいただけたらと考えている。」

**木村正理事長**「C2水準の業務内容について、過去のヒヤリングでは広範囲にコメントしたが、どのような決着をみるのか、議論の推移を見守りたい。」

⑥厚生労働省科学研究費補助金門田班の分担班からの依頼に基づく「新型コロナウイルス感染症による他疾患等への影響調査研究」に関するアンケート調査実施について。

[資料：総務 11-1, 11-2]

**青木大輔副理事長**「腫瘍は婦人科腫瘍登録データを使う、分娩については周産期登録データを使うが、良性腫瘍の手術件数の推移についてはデータがなく、一気に調査をする方針とし、約1,600の施設を対象とする。本会のアンケートとなるため、カバーレターを作成した。木村正理事長とワーキンググループ長の連名で年内に発出したい。」

## (2) 衆議院調査局厚生労働調査室

旧優生保護法下における障害者らに不妊手術が繰り返された問題に対する本会の検証状況について問い合わせがあり、現在、旧優生保護法検討委員会で解析中の状況について回答した。

[資料：総務 12, 13]

**青木大輔副理事長**「何故、本会が調査に取り組んでいることを認識したのか、ご存じか。」

**加藤聖子副理事長**「共同通信で1回取り上げられたことを確認している。」

**青木大輔副理事長**「他学会の取組についてご存じか。」

**加藤聖子副理事長**「日本精神神経学会が精神科の立場として過去に開催したシンポジウムでご発言された方の一人を、来年度開催する『旧優生保護法を考える』シンポジウムに演者としてお呼びしている。」

## 〔Ⅲ. 関連団体〕

### (1) 日本医学会、日本医学会連合

本会ホームページへの掲載（会員周知）依頼を受領した。

部署	内容	資料
日本赤十字社 血液事業本部	献血血液の研究開発等への使用に関する公募の実施	総務 14, 14-1

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

- (2) 義務教育からの包括的性教育の推進と確実な避妊法の普及を進めるプロジェクトについて第17回医療用から要指導・一般用への転用に関する評価検討会議（10月4日開催）に参考人として加藤聖子先生が参加した。

**加藤聖子副理事長**「参考人としての意見を求められ、『日本の医療状況に応じた制度設計が必要だ。OTC化に進む流れにあるとは考えるが、①処方の際には薬剤師による書面説明、面前で1錠服用、産婦人科受診に繋ぐ仕組みを作ること。②OTC化を認めるときは、インターネットでの購入が出来ない、説明が必要などの要件を満たす要指導医薬品とすること。③OTC化と並行して義務教育からの包括的性教育を充実させること。』と意見した。」

- (3) 日本耳鼻咽喉科学会

日本耳鼻咽喉科学会より学会名を日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会に名称変更の案内を受領した。

[資料：総務 15]

**青木大輔副理事長**「学会の、特に基幹領域学会の名称変更は手続きが煩雑。各基盤学会に許可を求める文書が発出され、本会としては学会内で検討し決定されたことに異論なしと回答した。」

- (4) 日本女性医学学会

日本女性医学学会より、「メノポーズ週間」（10月18日～10月24日）への後援名義使用申請を受領した。経済的負担はなく例年の依頼であることから、これに応諾した。 [資料：総務 16]

- (5) 日本精神神経学会

- ① 「精神疾患を合併した、或いは合併の可能性のある妊産婦の診療ガイド」について、当事者・家族版の作成およびガイド普及プロジェクトの促進について承認依頼を受領した。

[資料：総務 17]

**青木大輔副理事長**「川崎医科大学の下屋浩一郎先生がガイド作成委員会の活動を通じ、良かった点と課題点を整理いただいている。有意義な活動と評価できるため、促進について異論はない。」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

- ② 日本精神神経学会と日本産科婦人科学会合同「精神疾患を合併した、或いは合併の可能性のある妊産婦の診療ガイド」作成委員会活動の報告について。 [資料：総務 17-1]

- (6) 一般社団法人女性労働協会

一般社団法人女性労働協会より、厚生労働省から委託を受けた「母性健康管理研修会」の会員への周知依頼を受領した。妊婦健診の領域では必須の内容も盛り込んでいるため、本会ホームページにリンク掲載して会員に周知した。 [資料：総務 18, 18-1]

- (7) 予防接種推進専門協議会

- ① 日本小児科学会より、予防接種推進専門協議会を通して、「医療従事者を対象としたワクチン忌避に関するアンケート調査」の依頼があった。本会ホームページに、「対象者は子どもにワクチ

ン接種を行っている、あるいは、子どもやその家族に対して、ワクチン接種に関する説明を行っている医療従事者で、実際の接種業務への従事の有無は問わない」旨補記のうえ掲載し、アンケートに回答いただくよう、会員に周知した。 [資料：総務 19]

②9月26日に第59回予防接種推進専門協議会が開催され、本会から川名敬特任理事が出席した。 [資料：総務 19-1]

**川名敬特任理事**「この協議会に出席した際、①HPV ワクチンの接種勧奨に向けての議論再開を早期にお願いしたい、②コロナ禍にあつて、定期接種の年齢を上げていただきたい、③接種を再開するにあたり、バルクに接種が始まったとき筋肉注射後に発生するさまざまな症状で同じことが起きぬようサポート体制や教育体制を整えるための協議をいただきたい、この3点を厚生労働省に要望するにあたり、本会に要望書の作成依頼があつた。応諾する方針で良いか、ご審議いただきたい。」

**宮城悦子特任理事**「厚生労働省の局長以下、一新されたため HPV ワクチンの接種勧奨に向けての状況を確認したい。」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

#### (8) 一般社団法人日本口腔ケア学会

一般社団法人日本口腔ケア学会より、妊娠期からの口腔ケアに関する内容の意見共有について依頼があつた。本件は、診療ガイドライン運営委員会のガイドライン産科編作成委員会の三浦清徳委員長に対応を依頼した。 [資料：総務 20]

#### (9) 日本医療機能評価機構

日本医療機能評価機構より、EBM 普及推進事業 (Minds (マインズ)) の、診療ガイドライン作成者向け「診療ガイドライン作成に関する意見交換会」(11月13日)の案内を受領した。本件は、産婦人科ガイドライン(産科・婦人科外来)2023 作成委員会、婦人科腫瘍委員会、周産期委員会、女性ヘルスケア委員会に出席を依頼した。 [資料：総務 21]

#### (10) 一般社団法人日本子ども虐待防止学会

一般社団法人日本子ども虐待防止学会より、「子どもの予防可能な死亡事例全数検証制度(チャイルド・デス・レビュー)に関する要望書その後の経緯に関するご説明」で、国への要望書提出は、いったん見送る考えであることを受領した。 [資料：総務 21-1]

#### (11) 日本癌治療学会

日本癌治療学会より、「全国がん登録によるデータの学術団体における利活用の円滑化」に関する要望書について、本会が連名になるか否かの諾否を求められた。「関連研究班への要望書」および「厚生労働大臣等への要望書」を婦人科腫瘍委員会に確認のうえ、これを応諾した。

[資料：総務 21-2, 21-3, 21-4]

**青木大輔副理事長**「がん登録等の推進に関する法律では、第三者提供の禁止、保有期間の制限等が、状況を問わず一律に適用されており、学術団体の収集するデータとの突合が事実上不可能となっている。婦人科腫瘍委員会とも情報共有のうえ、要望書への連名を応諾した。」

#### 〔IV. その他〕

(1) ウィメンズ・ヘルス・アクション実行委員会から、「ウィメンズ・ヘルス・アクション 2021 年度活動」(2021年10月10日、2022年3月6日、配信スタジオ会場(西新宿予定))の後援名義依頼を受領した。経済的負担はなく例年の依頼でありこれを応諾した。 [資料：総務 22-1, 22-2, 22-3]

(2) ファイザー株式会社より、「トロビシン筋注用 2g 欠品に関するお詫びとお願い」を受領した。本件の周知についての対応は、女性ヘルスケア委員会に対応を確認したところ、欠品期間が3ヵ月程度であること、抗菌薬の Key Drug に選定されていないこと等から全会員への周知は不要であると判断した。 [資料：総務 23]

(3) AYA がんの医療と支援のありかた研究会から、「AYA week 2022」(2022年3月20日～21日)への後援名義ならびに広報の協力依頼を受領した。後援名義は経済的負担はなく前回同様応諾とし、広報の協力依頼についてはお断りとした。 [資料：総務 24, 24-1]  
本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

(4) 持田製薬株式会社から、COVID-19 の影響で、血液凝固阻止剤のヘパリンカルシウム皮下注5千単位/0.2mL シリンジ「モチダ」が品薄になったことから、入院患者で点滴ルートが確保されているような方にはヘパリンナトリウムの点滴静注等の治療を優先してほしい、とのお知らせを本会から医療関係者向けに出してほしい、との依頼があった。 [資料：総務 25-1, 25-2, 25-3]

木村正理事「新型コロナウイルス感染症の血栓症予防に大量に使用されたことで品薄になっている。入院中の血栓症予防については、記載の治療を優先いただくよう、ホームページで周知したい。」  
本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

## 2) 会 計 (万代昌紀理事) 特になし

## 3) 学 術 (岡本愛光理事)

### (1) 会議開催

令和3年度健康・医療活動賞予備選考委員会 (予定)	10月
学術集会の在り方ワーキンググループ第1回会議 (予定)	10月～11月
学術講演会会場選定小委員会 (予定)	10月～11月
令和3年度第3回学術担当理事会 (予定)	12月10日 (金)
令和3年度第3回学術委員会 (予定)	12月10日 (金)

(2) 令和3年度健康・医療活動賞には6プロジェクト(個人1件、団体5件)の応募があった。

(3) 2021年度日本医師会医学研究奨励賞について本会より候補者として推薦した吉原弘祐先生「三次元構造を加味した統合ゲノム解析による子宮内膜幹細胞の同定」が受賞された。

(4) プログラム委員会関連 特になし

#### 4) 編集 (加藤聖子副理事長)

##### (1) 会議開催

第2回和文誌編集会議・JOGR 編集会議 (ハイブリッド)	10月8日
第3回和文誌編集会議・JOGR 編集会議	11月5日予定

加藤聖子副理事長「本日、JOGRの編集会議を開催し、2022年5月、パリで開催されるAOFOGの  
アワード候補を決定した。YSA、ドクターチャン賞、ドクター村田賞の受賞者候補で、ドクターチ  
ャン賞とドクター村田賞はそれぞれ5名の候補を選定した。」

##### (2) 英文機関誌 (JOGR) 投稿状況： (9月30日現在)

[資料：編集1]

	2019	2020	2021
Pending / Withdrawn	28	54	454
Accepted	279	495	193
Rejected	1198	1913	1397
<b>Grand Total</b>	<b>1505</b>	<b>2462</b>	<b>2044</b>

加藤聖子副理事長「進捗は昨年同様か微増のペースである。」

##### (3) 和文機関誌同梱依頼

日本医療機能評価機構より和文機関誌11月号との同梱依頼があった。カイトーより和文機関誌12  
月号との同梱依頼があった。

[資料：編集2]

加藤聖子副理事長「カイトーから、添付資料の通り『産科医療補償制度ニュース』の同梱依頼があっ  
た。」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

#### 5) 渉外 (大須賀稯理事)

##### (1) 会議開催

10月2日、KSOG主催によるJ-K-T Officers' meetingが開催され、本会より、木村正理事長、  
青木大輔副理事長、加藤聖子副理事長、大須賀稯渉外委員長、岡本愛光FIGO Council  
representative、永松健渉外主務幹事、矢幡秀昭第74回プログラム委員長、桑原慶充幹事 (TAOG  
2021派遣メンター) が出席した。

大須賀稯常務理事「J-K-Tの若手による論文作成が順調に進んでいない。コロナ禍にあつて対面の環  
境を確保しづらい事実を勘案し、Suspendしてはどうか、と提言した。台湾は賛成、韓国は状況確  
認したうえで判断、との回答だった。」

(2) 9月9日、10日、FIGO Council meetingが開催され、本会からのCouncil representativeとし  
て岡本愛光常務理事が出席した。

[資料：渉外1]

岡本愛光常務理事「Dr André Lalondeが、日本が、筑波大学医学医療系助教であり助産師でもある  
福澤利江子先生が中心となり、ICIへ積極的に取り組んでいることについて、高く評価した。」

(3) FIGO International Childbirth Initiative (ICI) Working GroupのChair Dr. André Lalonde  
より、ICIに関する説明スライドを受領した。ICIへの本会の協力を希望されている。

[資料：渉外2]

大須賀穰常務理事「Dr André Lalonde より、『筑波大学の福澤利江子先生が本会の会員ではないならば、今後は福澤利江子先生とではなく、本会と進めたい』と要望された。取組みについての資料を入手したので周産期委員会で検討いただき、取り組める余地があれば事務局にご連絡いただきたい。」

(4) 11月27日にオンライン開催のSCGO Annual Conferenceにて、早川智教授（日本大学医学部病態病理学系微生物学分野）がCOVID-19感染と妊婦およびワクチン接種について講演を行う予定である。

(5) FIGO World Congress 2021（10月21-28日、Virtual）のOn Demand Programとして、J-K-T Session 2021を開催するにあたり、FIGO加盟学会に宣伝チラシを送付した。 [資料：渉外3]

## 6) 社 保（永瀬智理事）

(1) 日本婦人科腫瘍学会の依頼を受け、昨年11月に本会より「医薬品の適応外使用事例」として申請したメドロキシプロゲステロン酢酸エステル、およびレトゾールの子宮内膜間質肉腫に対する使用が承認された。

## 7) 専門医制度（関沢明彦理事）

(1) 日本専門医機構関連

①日本専門医機構からの2022年度臨床研究医コースの募集について東京医科大学病院、岐阜大学医学部附属病院の2施設が「臨床研究医コース」の募集を行ったが、応募者は0名だった。なお、同コースはシーリングの対象外となるが、専門研修プログラムの「定員枠内」となる。

[資料：専門医 1-1, 1-2]

②日本専門医機構より、厚生労働省医政局からの専門医の広告表示に関する施行通知と事務連絡を受領した。認定日にかかわらず今年10月から機構専門医の広告が可能となった。

[資料：専門医 2]

(2) サブスペシャルティ関連

①日本専門医機構から、サブスペシャルティ領域の機構認定専門医の認定・更新の補足説明（更新基準）（案）の作成にあたり、ワーキンググループ（WG）を設置し、本会より1名のサブスペシャルティ領域の委員を推薦して欲しい、と依頼があり、徳永英樹先生（中央専門医制度委員会前主務幹事）を推薦した。

(3) 学会専門医関連

①会議開催

第4回研修システム小委員会	10月4日
第3回中央専門医制度委員会	10月17日【予定】

## 8) 倫理 (三上幹男理事)

### (1) 会議開催

第2回「PGT-A に関する小委員会」(開催済)	9月7日
登録・調査小委員会の所管、業務内容の検討ワーキンググループ(小委員会)(開催済)	9月8日
第4回「着床前診断」に関する見解改定小委員会(開催済)	9月9日
PGT-A 第1回公開シンポジウム(開催済)	9月23日
第5回「着床前診断」に関する見解改定小委員会(開催済)	10月6日
第3回「PGT-A に関する小委員会」(開催済)	10月6日
第2回 がん・生殖医療施設認定小委員会(予定)	10月11日
第6回「着床前診断」に関する見解改定小委員会(予定)	10月13日
登録・調査小委員会の所管、業務内容の検討WG(スモールグループ)(予定)	10月20日
PGT-A 第2回公開シンポジウム(予定)	10月23日
第6回予備「着床前診断」に関する見解改定小委員会(予定、予備日程)	10月25日
令和3年度第3回倫理委員会(Web会議)(予定)	11月9日

### (2) 本会の見解に基づく諸登録(令和3年9月30日)

ヒト精子・卵子・受精卵を取り扱う研究に関する登録	99 研究(47 施設)
体外受精・胚移植に関する登録	624 施設
ヒト胚および卵子の凍結保存と移植に関する登録	624 施設
顕微授精に関する登録	598 施設
医学的適応による未受精卵、胚(受精卵)および卵巣組織の凍結・保存に関する登録	150 施設
提供精子を用いた人工授精に関する登録	12 施設

### (3) 着床前診断に関する申請・認可について(令和3年9月5日)

- ・施設申請: 182件《承認173施設(うち条件付き: 11施設)、照会9施設》 [資料: 倫理1-1]
- ・症例申請: 987例《合計987件(内訳) 承認881例、非承認36例、審査対象外35例、取り下げ5例、照会28例、保留2例》(承認881例のうち134例は条件付き) [資料: 倫理1-2]

### (4) 重篤な遺伝性疾患を対象とした着床前遺伝学的検査(PGT-M) に関しての審査協力依頼(意見書

- A) 回答の進捗について [資料: 倫理2-1、2-2]

三上幹男常務理事「24学会のうち21学会からご協力いただけるとの回答を得ている。3学会については対象疾患の有無も含めて確認しつつ、進めていく。」

### (5) PGT-A・SR 臨床研究に関する公開シンポジウムの進捗について

[資料: 倫理3]

三上幹男常務理事「9月23日に第1回目を行い、約600名の方々に参加いただいた。本会のホームページに用語の説明とアンケートを掲載する。第2回は10月23日に開催、日本小児科学会会長の岡明先生のほか、第1回に参加された方にもご意見をいただく。」

### (6) PGT-A/SR 見解改定の流れについて

[資料: 倫理4]

三上幹男常務理事「PGT-Mの見解改定作業はすでにパブコメを行っているところで12月の理事会に最終版を提出可能である。生殖に関する問題に関しては患者にとっては時間がとても大切であ

る。現在着床前診断の見解は一つであるが、今回はPGT-MとPGT-A/SRとにわたる予定であり、PGT-A/SRの見解改定も上記の理由で同時に行いPGT-MとPGT-A/SRについて同時に運用を開始したい。10/23日のPGT-A/SRの公開シンポジウム後に改定案を作成しパブコメを行った後に修正を加えて12月の理事会に最終案を提出したい。」

**杉浦真弓学会側調整役**「PGT-A 特別臨床研究の中間解析で流産率が低下している結果については推定できるが、臨床研究としてコントロールを取っておらず、明確なことは言えないと考える。学術的なことが独り歩きせぬよう、極めて正確な記載をするべきだと思う。」

**木村正理事長**「貴重な意見である。体外受精を受けなければならない流産を繰り返す方、という条件になろうかと思う。そのほかにもミスリードに繋がらないような表現、説明は大事だ。」

**三上幹男常務理事**「仰る通り、さまざまな意見や判断がある。ご意見を吸い上げたうえで取りまとめ、正確な情報を患者さんに提供することが最も重要で、確りと取り組んでいきたい。」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

(7) 重篤な遺伝性疾患を対象とした着床前遺伝学的検査 (PGT-M) の実施判断時に必須としている第三者遺伝カウンセリングについての回答 (日本人類遺伝学会、日本遺伝カウンセリング学会) について

[資料: 倫理5]

**三上幹男常務理事**「札幌医科大学の櫻井晃洋先生より、第三者カウンセリングは必要とのご意見をいただき、運営について真摯なご示唆をいただいた。本会が今後日本人類遺伝学会や日本遺伝カウンセリング学会と協力していくか、関係する小委員会や倫理委員会で検討したうえで、理事会にお諮りしたい。」

## 9) 教 育 (渡利英道理事)

### (1) 会議開催

用語集・用語解説集委員会コアメンバー会議 (WEB 開催)	10月15日
産婦人科研修の必修知識編集委員会 (WEB 開催)	未定

### (2) 書籍頒布状況 (9月30日現在)

	9月販売数	累計販売数
用語集・用語解説集改訂第4版 (書籍版)	11	959
用語集・用語解説集改訂第4版 (電子版付)	7	1,106
専門医試験例題と解説 2017	15	1,153
専門医試験例題と解説 2018	15	1,783
専門医試験例題と解説 2019	17	1,671
専門医試験例題と解説 2020	21	1,096
専門医試験例題と解説 2021	30	791
産婦人科専門医のための必修知識 2020	51	2,472

### (3) 専門医試験作成委員会

2022年度専門医認定試験問題作成に向けて、4分野の委員長、副委員長、委員を選定した。2022年7月に向けて定期的な委員会を開催して作成に努める。

(4)用語集・用語解説集委員会

第5版出版に向けて杏林舎のファイルメーカーを利用して今後改訂作業を進めていく。

(5)産婦人科研修の必修知識編集委員会

2022年11月発刊に向けて2021年度専門医試験問題作成委員、2020年必修知識作成者および各専門員会にアンケートを行った。この結果をもとにマイナーチェンジする予定である。

10) 地方連絡委員会 (渡利英道委員長)

(1)慣例として学術講演会開催中に行っている地方連絡委員会について、来年度の第74回学術講演会は8月に開催であることから地方連絡委員会は現地開催をせず、前倒して開催する予定である。開催方法や日時については今後検討する。

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

II. 理事会内委員会報告並びに関連協議事項

1) 広報委員会 (工藤美樹理事)

(1)JOB-NET 公募情報について

JOB-NET 事業報告

[資料：広報1]

(2)ホームページについて

①ホームページアクセス状況について

[資料：広報2]

②常時SSL化について、より安全にホームページをご利用いただくため、本会ホームページの常時SSL化 (https化) 対応を実施し、9/27に完了した。

旧URL：<http://www.jsog.or.jp/>

新URL：<https://www.jsog.or.jp/>

旧URLへアクセスした場合、自動的に新URLへ切り替わるため、利用者に影響はありません。

(3)女性の健康週間に関する小委員会

①「女性の健康週間2022」現時点の決定事項について

[資料：広報3]

工藤美樹常務理事「スペシャルセミナーをオンラインライブ配信で実施し、その後約1か月間アーカイブを配信する。新聞広告は3件実施する。」

②地方学会市民公開講座 開催予定について

[資料：広報4]

(4)HUMAN+/Baby プラスに関する小委員会について

①会議開催

第1回HUMAN+/Baby プラスに関する小委員会 (Web)
----------------------------------

10月1日 (金)
-----------

②HUMAN+/Baby プラス事業の今後について

## 2) 災害対策・復興委員会（中井章人委員長）

### (1) 会議開催

第3回災害対策・復興委員会（Web開催）	10月13日（水）
----------------------	-----------

- (2) WEBセミナー「大規模災害発生時に、被災地域の分娩取扱い施設で行うべきこと」の再配信を10/4に開始した。また、後援の3団体（日本看護協会、日本産婦人科医会、日本周産期・新生児医学会）に対し再配信の案内と周知の依頼を送付した。 [資料：災害対策1]

## 3) 診療ガイドライン運営委員会（杉浦真弓学会側調整役）

### (1) 会議開催

ガイドライン産科編作成委員会	第9回 9月30日（WEB開催） 第10回 10月28日（WEB開催）【予定】 第11回 11月25日（WEB開催）【予定】 第12回 12月9日（WEB開催）【予定】
ガイドライン婦人科外来編作成委員会	第9回 9月19日（WEB開催）
ガイドライン婦人科外来編評価委員会	第1回 10月21日（WEB開催）【予定】

### (2) 2020 ガイドライン販売状況

#### ① 「産婦人科診療ガイドライン-産科編2020」頒布状況について（9月末日現在）

	9月販売数	累計販売数
書籍版(電子版付)	123	13,707

#### ② 「産婦人科診療ガイドライン-婦人科外来編2020」頒布状況について（9月末日現在）

	9月販売数	累計販売数
書籍版(電子版付)	62	9,666

### (3) 「産婦人科診療ガイドライン産科編2023」評価委員会

一般社団法人知ろう小児医療守ろう子ども達の会（2020年4月30日解散）の元代表である阿真京子（あま きょうこ）氏に、外部委員として医会側の評価委員会委員に加わって頂く予定である。

杉浦真弓学会側調整役「婦人科編は作成完了し、10月21日に評価委員会が開催される。産科編では、阿真京子氏に外部委員として加わっていただく予定である。」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

## 4) コンプライアンス委員会（若槻明彦委員長）

- (1) 役員、委員からの利益相反に関する自己申告書類について、提出を依頼している。

(2) COI に関する WEB 回収の検討について

COI の WEB 回収が法的に問題ないかを顧問弁護士に確認依頼中である。問題のないことが確認されれば、コンプライアンス委員会での審議を経て次回理事会で承認を得る予定である。

若槻明彦委員長「法的に問題ないか確認をしたところ、問題なしとの回答を頂戴したが、個人情報の取扱いについては厳重な管理体制を構築するよう、ご指示もいただいている。委員会で議論のうえ、理事会にお諮りしたい。」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

(3) 「倫理委員会 臨床研究審査小委員会」から臨床研究審査委員会への委員会名称変更に伴う利益相反に関する指針・細則の改訂について

利益相反に関する指針・細則に記載されている、「倫理委員会 臨床研究審査小委員会」の表記を、「臨床研究審査委員会」へ修正する必要がある。委員会内のメール審議で了解を得て、次回理事会に提出する予定である。

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

## 5) サステイナブル産婦人科医療体制確立委員会 (増山寿委員長)

(1) 会議開催

第1回サステイナブル産婦人科医療体制確立委員会、未来委員会合同WG	10月4日
第2回サステイナブル産婦人科医療体制確立委員会	10月9日【予定】
第3回サステイナブル産婦人科医療体制確立委員会	12月4日【予定】

(2) 来春 (4/16 を予定) 「拡大サステイナブル産婦人科医療体制確立委員会」の開催を検討している。

(3) 第73回日本産科婦人科学会学術講演会委員会企画(指導医講習会)の冊子を発刊し、全国の大学病院長、産婦人科教授、都道府県の関連部署宛てに送付する予定である。

(4) 10月6日厚生労働省医事課の医師の働き方改革におけるC-2水準モデル審査の説明会に参加した。増山寿委員長「技能についての評価は難しい、C-2水準モデルは手続が煩雑でありB水準での申請が増えているとの現状報告を確認した。検討会は継続しており、別途、現状報告をする。」

## 6) 産婦人科未来委員会 (吉田好雄委員長)

(1) 会議開催

2021年度若手委員選考会 (ハイブリッド開催)	9月23日
--------------------------	-------

(2) Welcome to OBGYN World! (WOW!)

10月10日(日)に、医学部医学科1~4年生を対象に新規リクルート企画(Welcome to OBGYN World(通称WOW!))をWEB形式で開催する。各大学医局において医学生と産婦人科医の繋がりを強め、将来の産婦人科専攻医リクルートにつなげる事を目的とする。

フクラシア八重洲を配信本部とし、参加者約300名、チューター約100名、運営・未来委員約50名体制で実施する予定である。

**吉田好雄委員長**「今回、リクルートの対象を医学科の1年生から4年生とした。担当委員のみなさんには努力いただいている。リハーサルを拝見したが素晴らしい出来栄となっている。木村正理事長にもご参加いただき、成功裡に収めたい。」

### (3) 若手委員公募

2021年11月から活動をする若手委員10名を募集し、計17名から応募があった。9月23日にフクラシア東京ステーション（ハイブリッド開催）にてコアメンバーによる選考会を開催した。

これまでのリクルートイベントでの活動実績および地域性を考慮して、厳正なる審査の結果、以下10名を選出した。

青柳陽子先生 大分大学

イズデプスキアレクサンデル龍也先生 昭和大学

今泉絢貴先生 徳島大学

北村直也先生 東京慈恵会医科大学

堺洋佑先生 東京医科大学

當麻絢子先生 国立病院機構 弘前病院

森山真亜子先生 鳥取大学

山本健太先生 香川大学

吉村拓馬先生 慶応義塾大学

良川大晃先生 北海道大学

**吉田好雄委員長**「10名の枠に17名の応募をいただいた。この10名をあらたに若手委員として迎えたい。全国にバランスよく散らばっており、運営面でも問題なくお認めいただきたい。」

**木村正理事長**「10月10日のWOW!は、300人という大規模なイベントになった。小西郁生理事長時代に、「学生の入学の面接で、小児科は居ても産婦人科は居ないのだよ。」と仰っておられたことを思い出した。若い頃から刺激することは大事なので良い企画だと思う。成果に期待したい。」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

## 7) 医療安全推進委員会（亀井良政委員長）

- (1) 一般社団法人日本医療安全調査機構より、令和3年8月の医療事故調査制度現況報告を受領した。

[資料：医療安全1]

## 8) 公益事業推進委員会（小林陽一委員長）

- (1) アトムメディカル株式会社より寄附金を頂戴した。

## 9) リプロダクティブ・ヘルス普及推進委員会（横山良仁委員長）

### (1) 会議開催

令和3年度第3回リプロダクティブ・ヘルス普及推進委員会	9月15日（WEB開催）
-----------------------------	--------------

**横山良仁委員長**「前回の理事会でご指示いただいた、本委員会から本会へ提言書を提出する件については、11月5日の常務理事会で提示できるよう、準備中である。また、加藤聖子副理事長から報告をいただいた緊急避妊薬のスイッチ OTC 化については、今後、最適解に向けて本委員会での議論が必要だと考える。」

**加藤聖子副理事長**「リプロダクティブ・ヘルス普及推進委員会には、日本産婦人科医会で議論の中心になっているメンバーもいらっしゃるの、是非、学会側としての意見を出していただけたら、と考える。」

## 10) 子宮頸がん検診・HPV ワクチン普及推進委員会（宮城悦子委員長）

(1) HPV ワクチンの積極的接種勧奨の再開の目途について：再開決定後、速やかにその後の対応についてのコンテンツを HP で公開できるように準備中。

**宮城悦子委員長**「積極的接種勧奨の再開が決定されたら、何に取り組むべきかをピックアップし、コンテンツとして各団体のホームページに公開できるよう、準備をしている。次回の理事会でたたき台を提示させていただく予定である。」

(2) 全国都道府県への HPV ワクチン接種に関する調査実施前の、一部地域へのメールによる予備調査について：結果は理事会で報告予定。 **[資料：子宮頸がん1]**

**宮城悦子委員長**「前回の理事会で意見をいただいた、都道府県別の HPV ワクチン取組の温度差について、2021年度はどのような体制をとったか、簡単な予備調査を行うものである。回答を拝見し、個別のインタビューも行う予定である。このアンケートを実施して良いか、お諮りする。」

**青木大輔副理事長**「先生の感触としてお聞きしたいのだが、自治体ごとの取組といっても予算や考え方によって違うのではないかと考える。如何か。」

**宮城悦子委員長**「推進の旗を振る方の存否、存在したときの地位に左右されるだろう。最も力を入れているのは岡山県で、知事自らインタビューを受け接種率について触れている。一方で薬害オンブズマンの動きも気になる。厚生労働省は、本会が提出した要望書を受けて、接種年齢を引き上げて良いとの見解を公式に発表している。本会としては、そうした事実に基づいてアンケートに取り組む考えである。」

**木村正理事長**「キャッチアップに向けて取り組んでいる市町村単位の実態を認識できるのか。」

**宮城悦子委員長**「仰る通りで、地方自治体が把握しているか、がポイントだ。定期接種なので把握していることが自然だと考える。」

**横山良仁特任理事**「青森県の平川市が市議会委員の取組でキャッチアップに着手し、弘前市も興味を示していると聞いている。こうした動きは良いことだと思う。」

**木村正理事長**「厚生労働省の取組はあらためて発信されては如何か。」

**宮城悦子委員長**「承知した。URL を添付する形で来週、メール配信いたしたい。」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

## 11) SARS-CoV2 (新型コロナウイルス) 感染症対策委員会 (川名敬委員長)

(1) 新型コロナ感染妊婦の取り扱いに関する全国緊急アンケート調査を、全国都道府県の地方連絡委員もしくは地方医会長に対して行った (9/30 締め切りとして集計中)。

**川名敬委員長**「本アンケートは都道府県単位で実施した。現在未回収は10件程度。取りまとめてあらためて報告し、第六波に備えたい。また、本日コロナウイルス感染の療養が終わった妊婦さんに対する対応について、本会と日本産婦人科医会の共同で産科医療機関向けに発出した。退院した後の、若しくは隔離解除となった妊婦さんに対しては、厚生労働省の診療手引きにある通り、10日経過すれば感染性はなく、ためらうことなく診療することを周知した。」

**木村正理事長**「34週で感染されて、36週で療養期間を終えたが、それまで通っていた施設に来院を謝絶されたという事例があった。日本産婦人科医会の木下会長とも話をし、共同でメッセージを出すこととした。」

## 12) 臨床研究審査委員会 (万代昌紀委員長)

(1) 臨床研究審査報告

- ・山形大学医学部産科婦人科学講座 永瀬智会員より日本産科婦人科学会婦人科周産期登録データベース使用申請として承認された、「周産期登録データベースを用いた、分娩時の胎児心拍モニタリングパターンと新生児予後の関連の解析」について審査を行い9月6日に審査結果を報告した。

[資料：臨床研究1]

- ・獨協医科大学産科婦人科 三橋暁会員より日本産科婦人科学会婦人科周産期登録データベース使用申請として承認された、「経年的変化や周産期医療圏に着目した産科合併症の発症リスク要因の解明と妊娠分娩転帰に関する研究」について審査を行い、9月6日に審査結果を報告した。

[資料：臨床研究2]

以上